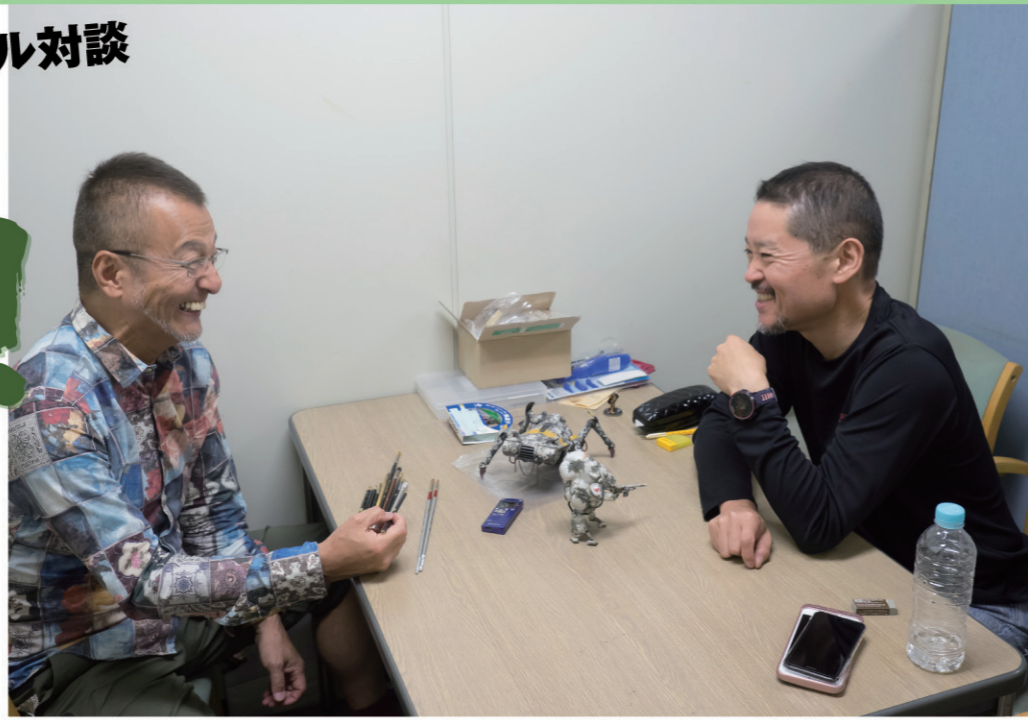


# 横山宏×MAX渡辺 スペシャル対談

## 筆塗りのススメ!

「マシーネンクリーガー (Ma.k.)」原作者でありイラストレーター&モデラーでもある横山宏とマックスファクトリー代表MAX渡辺の筆塗り対談が実現! 横山氏は「SF3D」時代から35年以上、圧倒的な表現力で模型ファンを魅了してきた筆塗りのスペシャリスト。MAX塗りを大流行させたMAX渡辺は2010年3月号からスタートした本誌連載「Ma.k. in SF3D」で筆塗りに関して以来、筆塗りの楽しさや奥深さを啓蒙し続けている。そんな達人2人が筆塗りの魅力をざっくばらんに語ってくれた。



### エアブラシもいいけど筆塗りだっておもしろい!

**MAX:**最近、筆塗りが流行ってきてるんですよ。  
**横山:**ホント? それはいいことだねえ。  
**MAX:**多くのヒトが筆で塗りたいって言いだしてるんですよ。  
**横山:**そうなんだ。塗装された模型を見て「このタッチがいいね」って言うでしょ。触るからタッチって言うんだよね。筆塗りは実際にタッチして塗るからおもしろくて流行ってるんだらうなあ。  
**MAX:**はい、ホント流行ってきてるんですよ。それも同時多発的に。  
**横山:**昔はプラモデル塗る人なら誰でも筆を使ってたけど、「エアブラシはこんなことまでできる」って風潮になって、エアブラシだけで塗る人も出てきた。飛行機をエアブラシだけで仕上げちゃう。なので、フィギュアは塗り

ませんって人もいるくらいだもんね。  
**MAX:**みんなとにかく筆ムラが嫌いだっただけです。それこそ恐怖。それを解決してくれるのがエアブラシだったんで「エアブラシすげ〜」ってなった。  
**横山:**残念ながらそのようですね。  
**MAX:**最近になって、タッチや感触といった筆塗りの「味」が認められるようになってきて、ようやく「筆塗りキタ〜」ってところなんですよ。  
**横山:**最近、模型の展示会を観に行くと、みんな筆の使い方が上手になってるもんね。  
**MAX:**はい。ミリタリーの世界はもうずいぶん昔から、タッチとか風合いを大事にしますよね。飛行機はこれまでもずっとソリッドにきちんと塗る感じだったけど、その飛行機ですらだいたい変わって、汚す人がずいぶん増えてきて。ガンプラは玉石混淆でピシッときれいなやつから結構汚いのもたくさんあるわけですよ。そういうのを全部ひっくるめて好きな人たちがいるのがマシーネンの世

界ですね。マシーネン好きな人はエアブラシだけの人や筆塗りだけの人はあんまりなくて、みんな適材適所で道具をバンバン使ってる。  
**横山:**「Ma.k. in SF3D」の連載、続けてきてホントよかったですねえ。  
**MAX:**ハイ、ずっと筆塗りを啓蒙し続けて今回「筆塗り」が巻頭特集になったわけだからこれはスゴいことですよ!! そういう意味でも僕らが表紙になるのは当然の帰結(笑)。  
**横山:**こんなジジイを表紙にしちゃって、知らないぞ、ガハハ。  
**MAX:**昔からみんな筆塗りには苦手意識があったんですよ。ムラにならない模型用のエアブラシが値段もお手軽になって盛り上がったときに、僕がMAX塗り(ベースグレーを吹き付けてから徐々に明るい本体色を立ち上げていくエアブラシ塗装法)をやったら、みんな喜んでくれて。それを経て僕もいろいろやってきたけど、表現も多種多様になって…。この話すると一冊書けるくらい長くなっちゃうんでやめときますけど(笑)。

**横山:**エアブラシ使ったらこんなきれいに塗れるってことで流行ったのも当然なんだけど、逆に言うと「筆塗りっておもしろいよ」ってことだね。  
**MAX:**そうなんです。2010年から始まった「Ma.k. in SF3D」の連載をたどっていくと、「エアブラシVS筆塗り」の時期があったんじゃないですか。僕は横山さんに対抗するためにエアブラシでなんとかしようとしたけど、マシーネンはエアブラシでしか上手くできなかった。  
**横山:**そういう時期があったねえ。  
**MAX:**車やバイクの模型を作るんだったらエアブラシは絶対あったほうがいいんですけど、飛行機とかエアブラシだけで塗るとちょっと味気ないので終わっちゃうんですよ。マシーネン連載で筆を使い始めたらハッと気づいて、自分で言うのもなんだけど、とどん筆塗りが上手になったんです(笑)。  
**横山:**わしというナイスな家庭教師がおるからね(笑)。筆塗りって絵を描く技術の1つなんだけど、模型は絵と違ってカタチをデッサンしなくていいし立体感出したりもしなくてもいい。一番おいしい色を置くところだけなんです。

**MAX:**立体塗り絵ですね。楽しくてしょうがない。  
**横山:**そう。だから筆塗りはやらないともったいないんですよ。筆で2000年くらいの歴史があって、使い方やセオリーが明確にある。結論言うと筆ムラを目立たせたくなかったら、筆塗りの上からクリアーをエアブラシで吹くだけでいいんだよね。人間の目はエアブラシで吹いたクリアーの粒子を見ると、その下の色も全部エアブラシで吹いたような判断をしてしまふんです。だからすごく細かいタッチで均等に塗ってあげれば、疑似エアブラシのような塗り方もできる。  
**MAX:**僕は筆で叩くように塗ってます。色をポンポン置いていく感じ。全体に色を置いていって「1回目はこんなもんでいいや」って。それを繰り返して、自分の都合のいいムラにするんです。  
**横山:**ムラをどこまで残さかってとこだよね。  
**MAX:**はい。ムラが消えすぎたら、筆に溶剤つけてもう一度ムラを出したりしますし。  
**横山:**筆の持ち方もね、自分の持ちやすい持ち方でいいんだよ。エアブラシだと持ちやすいように持つと大変なことになるけど(笑)。

### 筆塗りの利点はリカバリーの早さと厚い塗膜が作れること

**MAX:**僕は今でも便利な道具としてエアブラシを使っています。昔はエアブラシに万能感を持っていたのだけど、それは薄れましたねえ。一番大事なのはやっぱり適材適所ってことですね。エアブラシでしかできないことやエアブラシのほうが早いことはエアブラシでやる。筆のほうがいいことは筆でやる。コレに尽きますね。  
**横山:**そうだね、わしも筆とエアブラシ両方使うもん。それぞれいいところがあるからね。  
**MAX:**僕が思う筆のいいところはリカバリーが早いこと。模型にポンポン色を塗って「?」って気付いたらすぐ白を入れたりグレーを入れたり調色できる。色をのせてから試行錯誤がすぐできるのが好きかな。  
**横山:**次に何かをするレスポンスがすごくいいよね。  
**MAX:**そうですね。筆を何本か用意しておくといいですよ。本体色と違う識別帯のオレンジを塗りたいと思ったとき、エアブラシだと最後の段取りになっちゃうけど、筆だとポンポンと試せるんです。  
**横山:**筆で前の色が残ると、色が付いちゃってダメだって思うかもしれないけど、それがまたよかったです。色が混ざって濁るとそれが味になる。そういうことを失敗だと思わないで筆塗りを楽しんでほしいね。



▲11月号に掲載されたMAX渡辺によるホルニッセの塗装面。迷彩パターンや識別帯も筆で塗られ味わい深い仕上がりに

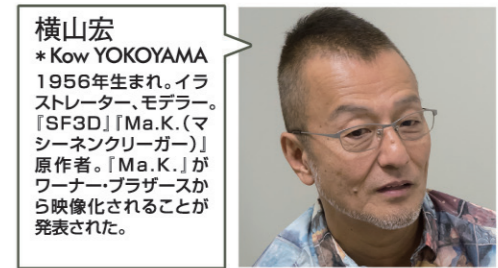
筆塗りとエアブラシ塗装の特性	
筆塗り	エアブラシ塗装
タッチで味わいを出せる 塗膜を厚くできる リカバリーが早い 塗装ブースが不要 溶剤が最小限で経済的	塗装面を均一に塗れる 広範囲に塗れる 乾燥が早い グラデーション塗装ができる ぼかし塗装ができる

**MAX:**筆塗りはそういうことも楽しめちゃうじゃないですか。そこもいいですよな。  
**横山:**偶然を楽しめるのがやっぱりいいよね。エアブラシの偶然大抵悲惨なことになるんで。逆流して噴き出すとか(笑)。  
**MAX:**アハハ。エアブラシは、とにかく広範囲に塗れて均一に塗れる。乾くのも早い。あと、クリアーを塗るならエアブラシですね。  
**横山:**筆塗りの利点は塗装ブースがなくてもなんとかなることだね。筆塗りで窓を開けて換気しましょう。エアブラシは溶剤捨てるほうが多いけど、筆塗りは溶剤をあんまり使わないで済むよね。  
**MAX:**ハイ、筆塗りは塗料も減らなくて経済的です。  
**横山:**塗料を捨てずに厚く塗膜ができるのが筆塗りのメリットだね。薄く吹いたほうがシャープに見えるって思う人が結構いるけど、プラスチックは光を透かす素材なんで塗膜は厚いほうがリアルに見えていいの。たとえば透明キャンピの窓枠は塗料が薄いと、反対側から撮影したときに透けてオモチャっぽく見えちゃう。筆塗りだと同じところに効率的に厚い塗膜が作れる。薄いところがあつたら乾いてからまた筆で塗ればいいよ。  
**MAX:**ふわっとした境目にしたいときはエアブラシがやっぱりいいですよな。  
**横山:**グラデーションを美しく出すには筆じゃ無理だもんね。エアブラシで絵を描く人っているでしょ。有名なのが空山基さんですけど、じつは空山さんは9割方筆で描いてる。面積じゃなくてエアブラシを使う時間が全制作時間の10分の1くらいなんです。  
**MAX:**空山さんってエアブラシの人っていうイメージがあるけど、そうじゃないんですな!

**横山:**そうなの。筆で描いてエアブラシでごまかすんですよ。ごまかすっていう言い方は悪い意味じゃないんですよ。きれいにグラデーションになるとか、煤が本当に煙で付いているように見えるってことは道具を上手に使って人間の目を欺いてるってことだから。煤を筆で描くと大抵は悲しい結果になるでしょ。映画「ダンケルク」を観てみんなこれからスピットファイア作ると思うけど、機関銃の排莖の穴の煤はエアブラシで吹いたほうがいいよ。筆だとウナギのタレみたいになっちゃうから(笑)。スピットファイア作るときはエアブラシと筆の両方使うことをこのあとのページで解説しますよ。  
**MAX:**早く終われることに越したことはないから、筆塗りは筆塗りで楽しんで、エアブラシ使るときは使えようってことですね。

### 気負わずに筆塗りにチャレンジしよう

**横山:**9月の全日本模型ホビーショーにマシーネン新作の1:20ニーゼの完成品を間に合わせなきゃいけない忙しい時期にスピットファイアが完成したの。できたのはエアブラシがあったからですよ。  
**MAX:**趣味のスピットファイアが完成して、仕事のニーゼができてなかったら人としてマズいですよ(笑)。ホント、ニーゼがホビーショーに間に合ってよかった。



**横山宏**  
 \*Kow YOKOYAMA  
 1956年生まれ。イラストレーター、モデラー。「SF3D」「Ma.k.(マシーネンクリーガー)」原作者。「Ma.k.」がワーナー・ブラザーズから映像化されることが発表された。

**MAX渡辺**  
 \*MAX WATANABE  
 1962年生まれ。プロモデラー。「マックスファクトリー」代表取締役社長。「PLAMAX」シリーズでプラモデルも精力的にリリースしている。

**横山:**ニーゼは筆で塗ったところをエアブラシ吹いて迷彩をばかしたの。こうすると全部エアブラシで塗るより厚い感じが仕上がるんです。  
**MAX:**上手にくっきりさせたりぼかしたりできるんで両方使うのがいいですよな。  
**横山:**エアブラシだけで仕上げると、ピントが合っていないところを見つけれない感じに見えちゃう。筆のはっきりした線が入ると人間はそこを見るから、人に見てもらいたい作品を作りたいなら、筆の明確な境目がなくてダメなんだね。エアブラシだったらきっちりマスキングして線がはっきりしたところは見てもらえる。何かを表現するときには明るいところと暗いところの境界線が大事で、それは筆のほうがやりやすいんです。塗装面にムラが出るってことは明るいところと暗いところができるってことだから、そういうムラも上手に使える人は見せ方も上手なんだよね。  
**MAX:**今後、筆塗りはシタデルカラーとかすごい性能の塗料が出てきたんで、もっともっとおもしろくなると思いますよ。ぜひ横山さんにもシタデルカラー試してもらいたいです!



▲9月のホビーショーでお披露目された横山氏のニーゼ。メインは筆塗りだがエアブラシで迷彩をばかして全体をなじませた